

第四十九回卒業証書授与式式辞

今年も3月になりました。どんな小さなつぼみでも、凍える冬を越えれば、一春ごとに、鮮やかな花を咲かせます。千里から世界へ。誇り高さ309名の若駒が、未来への航海の時を迎えました。

本日ここに大阪府立千里高等学校第四十九回卒業証書授与式を挙行いたしましたところ、ご多用中にもかかわらず、大阪府教育庁ご代表様、大阪府議会議員様、吹田市立中学校の校長先生方、並びに本校学校三師の皆様をはじめ、多数のご来賓の方々のご臨席を賜り、高いところからではございますが、心からお礼申し上げます。また本校同窓会、後援会、PTAの皆様方には、部活動や学校行事をはじめとする生徒たちの様々な活動に対し、物心両面にわたり、多大なるご支援とご尽力をいただきましたこと、深く感謝申し上げます。

保護者の皆様、お子さまの晴れのご卒業、おめでとうございます。高校時代は、長い人生のうちでも、心も体も大きく成長すると同時に、多感で不安定な時期とも言われています。しかし、保護者の皆様が熱心に育み、導いてこられた甲斐が実り、お子さまは、御覧のとおり、とても頼もしい若人に成長いたしました。皆様方の本日のお喜びは、ひとしおのものがあろうかと拝察し、心からお祝い申し上げます。

49期生の皆さん、改めて卒業おめでとうございます。皆さんの脳裏には、どのような思い出が去来しているのでしょうか。勉学のことでしょうか。青春のエネルギーをこよなく燃やした部活動のことでしょうか。体育祭や文化祭、オーストラリアやハワイでの研修旅行など学校行事のことでしょうか。そのいずれにおいても皆さんは、見事なまでに一生懸命でした。安易に妥協することを良しとせず、懸命に自らの可能性に挑戦する姿は、輝いていました。皆さんが手にした卒業証書には、一人ひとりのたゆまぬ努力があったことはもちろんのことですが、深い愛情をもって見守ってくださったご家族をはじめ、時には厳しく、時には熱く、そして優しく接してくださった先生方、そしてともに喜び、ともに涙した仲間、その他多くの人たちの励ましや支えがあったことを思い起こしてください。

さて、皆さんが千里高校で過ごした3年のあいだに、日本と世界は、大きく変貌をとげました。東日本大震災からの復興がままならないうちに、熊本大地震が起こり、多くの人々が被災しました。環境汚染や地球温暖化による影響で、地球の利用できる資源が急速に劣化していることが明らかになり、持続可能な社会の在り方が、喫緊の課題となっています。民族や宗教による対立が激化し、多くの難民が生み出されるとともに、イギリスのEU離脱、アメリカの一国主義への移行など、各国のこれまでの協力体制や連携にひずみが生じています。こういった社会の急速な動きのなかで、時代を担うリーダーとなる、皆さんの活躍に大きな期待をしつつ、餞の言葉を贈ります。

私が、今一番、注目しているのが、AI（人工知能）の急速な発達です。AIを活用した囲碁ソフト「AlphaGo」が、世界最強とされる囲碁棋士を、将棋ソフト「PONANZA」が、佐藤天彦現名人を、それぞれ破りました。オックスフォード大学で、AIを研究している学者は、「アメリカの総雇用者の仕事のうち、47%は、10～20年後には、機械によって代わられる。」という予測をしています。グーグルのCEOラリー・ページも、「20年後、あなたが望もうが、望むまいが、現在の仕事のほとんどが機械によって代行される。」と言っています。ページは、さらに「創造性を必要としない仕事は、すべてテクノロジーに代行される。」とも言っています。

初期のAIは、人間が命令したことを忠実にやるだけでしたが、大量のデータをプログラムに組み込み処理することで、対応できる領域を拡張していき、ただ単純な作業を行うだけでなく、様々な局面に対応できるようになりました。さらに、大量のデータを処理しながら、与えられた判断軸をもとに、様々な事象をイエスかノーで答える「分け方」を習得して、その事象が何かを認識し、行動できるようになりました。「分ける」ための判断軸を与えれば、それを活かして学習していくことを「機械学習」と言

います。ただ、この判断軸は、あくまで人間が与えたものでした。最新のAIは、その判断軸をも自分で見つけることができる、判断軸すらも自発的に創り出し、自発的に学習していく「深層学習（ディープラーニング）」を身につけています。この「ディープラーニング」が、AIを急速に発達させた手法です。しかしこの手法は、人間が日常的に行っている「学習」と同じような作業を、機械に模倣させているにすぎません。人間の脳内にある何層ものネットワークの深い（ディープな）つながりを、コンピュータ上でシミュレーションすることによって、脳の働きをマネさせているのです。すなわちAIの急速な発達には、人間の脳の解析から生まれたのです。

世界は、いままでも、そしてこれからも、人間が作っていきます。AIは、人間を補助するものであっても、人間に替わるものではありません。課題の解決に、AIを活用したとしても、最後に判断し、答えを出すのは、やはり人間です。

このAI時代を生き抜くために必要な力は、何でしょうか。一つには、何が問題であるかを自分で考え、気づくことのできる力、さらには試行錯誤を重ねながら、自分で問題を解決する力です。

これまでの学習は、どちらかといえば、与えられた内容を覚える、あるいはあらかじめ用意されていた一つの正解を探すという受動的なもの、初期のAIと同じものでしたが、これからは、与えられた問題の正解を見つけるだけでなく、何が問題かを発見する力が求められます。また物事には、いろいろな見方があり、簡単には割り切れない問題がたくさん存在します。迷いながらも、それらに辛抱強く立ち向かい、自分で確認し、自分で考えて判断しなければなりません。これからの変化の激しい時代に求められるのは、自分で課題を発見し、そして、自分で解決しようとする姿勢とその力ではないでしょうか。

二つには、人間の脳が、何層ものネットワークを持っているように、周りの人となつながら、ネットワークを構築し、社会に参加し、社会をよりよい方向に変えていく力です。これまでは、学校という限られた空間での生活でしたが、これからはより広い、様々な人々とのネットワークの中で、社会に貢献できる役割を担ってほしい。自分中心の考え方から、他者への配慮ができる人間になってほしい。そのためには、自分の考えを自分の言葉で、相手に分かるように表現するとともに、相手の立場に立って、相手の言葉もきちんと受け止め理解する、双方向でのコミュニケーションができる力を身につけてください。

この二つこそが、私たち教職員が、皆さんに求めてきた力です。皆さんは、千里高校での取り組みで、すでに、この力の何たるかを理解し、獲得されたと信じています。今後、さらにその力を磨いていくなれば、必ずやこの社会で、この日本で、そして世界で、活躍できることでしょう。皆さんに、これからの日本と世界を託します。

保護者の皆様、立派に成長されましたお子さまのご卒業、改めて心からお祝い申し上げます。お預かりしておりました大切な大切なお子さまを、本日無事、お返しすることができ、教職員一同、これに勝る喜びはございません。この間、本校の教育活動に多大なご支援、ご協力、ご理解を賜り、誠にありがとうございました。

卒業生の皆さん、健康に留意され、それぞれの新たな目標に向かって精進、努力され、その精進、努力が花を咲かせ、実を結ぶことを、心から願っています。私たちも、皆さんに「千里高校出身です」と誇りを持って言ってもらえるよう、取り組んでいきますので、千里のことを、いつまでも見守っててください。

かくて卒業生の皆さんの前途が洋々たるものとなり幸多かれと祈念して、私の饞の言葉といたします。

平成三十年三月一日

大阪府立千里高等学校 校長 松本 透